飛躍への挑戦！
高知県産業振興計画

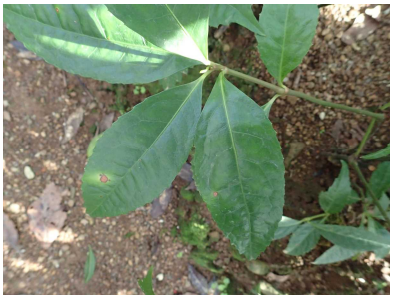
高知県 農業技術センターニュース

第 92 号　2018 年 7 月

目　　次

センリョウに発生する病害	・・・1	促成ピーマンの作期前進化試験 －ヒートポンプエアコンによる冷房経費－	・・・4
塩類集積土壌における硝酸態窒素と土壌水分含有量がナス台木の初期生育に及ぼす影響	・・・2	トルコギキョウの 2～3 月出し 新品種・系統の比較	・・・5
県産野菜の農薬残留モニタリング調査	・・・3	カンボジアでのナス科遺伝資源探索	・・・6

センリョウに発生する病害



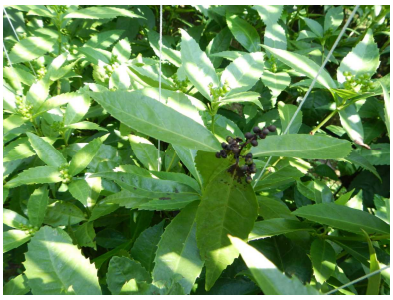


写真　産地で見られる障害（上：炭そ病、下：疫病）

表　殺菌剤散布によるセンリョウ炭そ病の防除効果

	調査葉数	発病葉率(%)	発病度	防除価
薬剤A	1080	4.9	2.7	0
薬剤B	1080	1.9	0.9	30.8
薬剤C	1080	0.4	0.1	92.3
薬剤D	1080	1.8	0.7	46.2
無処理	1080	2.8	1.3	

発病を以下の発病指数別に調査し、発病度および防除価を算出した。
発病指数　0:病斑なし、1:小型斑点 1～3 個、2:小型斑点 4～10 個、
3:病斑数 11 個以上あるいは大型進展病斑
発病度=Σ（発病指数別葉数×発病指数）÷（総調査葉数×3）×100
防除価＝100-試験区の発病度÷無処理区の発病度×100

県内のセンリョウ産地において、葉や茎に斑点ができたり一部が黒く枯れてしまうといった障害が発生しています。しかし、その原因についてはこれまでほとんど検討されていませんでした。そこで、このような障害に病原菌がどの程度関わっているか調査しました。すると、障害の一部はカビの一種である*Colletotrichum*属菌と*Phytophthora*属菌による病害であることがわかってきました。

このうち*Colletotrichum*属菌が引き起こす炭そ病について、有効薬剤の探索を行いました。その結果、何も薬剤を散布しない区に比べて、炭そ病の発生を抑える薬剤がいくつか明らかになりました（表）。今後は、得られた結果を基に防除体系案を構築する予定です。また、*Phytophthora*属菌による疫病に対しても、現在有効薬剤の探索に取り組んでいます。

このほかにも、炭そ病、疫病以外の病害が発生している可能性もあることから、今後さらに調査を続ける予定です。なお、本研究は、「革新的技術開発・緊急展開事業（うち地域戦略プロジェクト）」の支援を受けて実施しています。

（病理担当　沖友香　088-863-4915）